

2004年(平成16年)6月11日(金曜日)

地域ニュース

言葉

言葉

里山

里山

熊本北

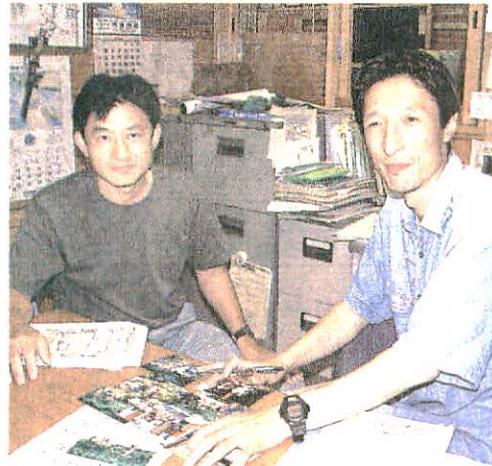
地域ニュース

里地里山保全活動「コンテスト」

「どんごろす」(原)を表彰

里地と里山の保全維持に取り組む団体を表彰する「日本の里地里山30保全活動コンテスト」(読売新聞社主催、環境省共催)に、宮原町立神の里山クラブどんごろす(上原健一会長、百三十八人)が選ばれた。活動を地道に続けてきた会員たちは認められてよかったです。喜びをかみしめた。

五木・五家荘県立自然公園内の宮原町・立神峡は人の手が入らず、荒れた山になりました。守り、暮らしの知恵や伝統を伝えよう」と誓を結成。



表彰を喜ぶ上原会長(左)と幸山館長

「どんごろす」は収穫物を入れる麻袋のことで、里山の恵みと自然を持ち帰つてほしいという思いを込めます。会員の半数は子どもで、町外者がやはり半数を占めているほか、下草刈りなど公園の森の世話をする活動は休日中心で毎回約三十人が集まるという。

上原会長は「光榮です。もっと多くの人に関心を持つてもらえるようこれからも頑張りたい」と感謝。里地公園館長の幸山昌生さん(43)は「会の人たちは、里山の保全を真剣に考え、文化を伝えようと懸命だ。本当によかったです」と喜んだ。

立神峡は一九九七年、環境庁(当時)から「里地等環境基本計画総合推進モデル事業」の対象に指定されたのを機に、町が一帯の照葉樹林の森を取得。昭和三十年代の農家をイメージした研修宿泊施設や遊歩道を作った。

会は、立神峡「里地公園」と共催で、棚田での米作りを中心とした「里山暮らしの学校」や環境学習会を開いているほか、下草刈りなど公園の森の世話をする活動は休日中心で毎回約三十人が集まるという。

上原会長は「光榮です。もっと多くの人に関心を持つてもらえるようこれからも頑張りたい」と感謝。里地公園館長の幸山昌生さん(43)は「会の人たちは、里山の保全を真剣に考え、文化を伝えようと懸命だ。本当によかったです」と喜んだ。